

平成 27 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700029		
法人名	特定非営利活動法人ファミリーサポートおひさま		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	〒028-0053岩手県久慈市栄町32地割37番地9		
自己評価作成日	平成28年 3月 9日	評価結果市町村受理日	平成28年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390700029-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0390700029-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28年 3月 18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地元の食材を使った旬な食材を提供し、みんな(スタッフ・ご利用者様・ご家族)の笑顔でご利用者様が安心して暮らしと元気を手に入れることができる施設

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

陽光をモチーフとした名称の事業所を複数運営する法人は子育て支援と高齢者支援を中心に、制度に依存することなく地域住民の生の声に基づいた多面的な活動を行っている。“心”を柱とした理念を掲げ、全職員での自己評価や事業所で独自に作成した「自己チェック」の定期実施など、自分たちの姿勢に関して不断に振り返りを図っている。そのような姿勢は入職して数年の職員にも「大切なのは身体の介護よりも心の介護だった」という気付きを生み、利用者や職員が一緒にいる中で心の交流が重視され、人と人が抑圧しあうことのない温かな雰囲気を生んでいる。リーダー会議では管理者は入らずにリーダー間の自由な話し合いを重んじるほか、夜勤二人体制や新人職員への二人ペアでの指導体制、自分の思いのままを話してもらう大弁論大会の実施など、個性を尊重しあい活き活きと働きながら職員間の絆を深めていく環境作りは秀逸である。地域に対する間口も広く、高齢者のみでなく近隣の子供達や住民に人と人のふれあいにおける楽しさや信頼、夢をも育てていくことが期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初期研修での理念の呈示と共有、全職員の常に目につくよう事務室に理念を掲示してあります。ミーティングや施設内研修を行う際にも理念を読み上げる等、理念を確認し、意識してケアを行えるようにしています。	GH開設以前から運営していたデイサービスのチームで、新規事業にむけて職員の和を継続していくために話し合い“心”を柱にした理念を制定した。研修等で共有化を図り、利用者の立場に徹する事を心掛け「ありがとう」と自然にいえる実践に努めている。	職員が協力し合い、人との関わりに感謝と喜びを生んでいこうとする願いは、形式ではなく一人ひとりの在り方に昇華している印象を受ける。今後も職員のチームワークや関わり合う人たちとの和、そして心に育っていくものを大切にしていってほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域店舗への買い物、なじみの理髪店の利用、お祭り、盆踊り、花火大会観覧等のイベント参加を積極的にすすめています。また地域団体の施設訪問、近隣の中学生との交流(施設訪問・ボランティア等)で出来るだけ交流できるよう心掛けています。(町内会にも入っています)	法人事業は地域ニーズを汲み取り、それに応える形で展開している。町内会婦人部や地域包括支援センターと共に介護教室を行っているほか、中学生が福祉体験やボランティアで来所している。近隣世帯や子ども達の往来も多く、交流機会に恵まれた環境のなかで日々の困りごとや楽しみに立脚した関わりが自然となされている。	地域の実生活に根差した法人の事業が理解され、多くの支援者がいる。隣に中学校があり交流がなされているが、更に年間を通し協働的活動(行事の企画や分担)を検討し、中学校の福祉活動を共にに行い地域貢献を図るなど一層の特色ある事業を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で出席された町内会長、民生委員の方々へ入居されているご利用者様の現在の状況、症状をお伝えし認知症の方への理解を深めていただくよう取り組んでいます。各団体(見学者・中学生の職場体験・高校生の施設研修等)の施設訪問等の際は、認知症の方へのかかわり方を話す時間を持っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況報告、アンケート結果の開示、報告をし、意見をいただきサービスの向上に役立てています。夜間想定避難訓練の際には地域の方の参加や災害時の対処についての意見を頂いています	法人が行う小規模多機能と合同で会議を行い、町内会長・市介護支援課・民生委員・警察・利用者及び家族の各委員から多様な意見が出されている。職員の名前を知りたいとの声を受け、胸元に安全に配慮した名札を着用した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加いただいております。ご利用者様の現在の状況を伝え、適切な支援が受けられるよう、相談しアドバイスをいただいております	「高齢者が地域でいきいきと生活」を共通の目標とし、介護・福祉・医療・行政の他機関連携を密に図り認知症ケアパス検討等に取り組んでいる。行政とは顔見知りで、何でも相談し話し合える信頼関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除、人権尊重の施設内部研修会を行い職員全員が身体拘束をしないケアを業務に結び付けています。また玄関の施錠は夜間のみ行っています	「拘束をしないケア」にとどまらず、理念の「感謝と尊敬の心でケア」の実践に努めている。行動抑制的なことばなど気になる対応はその都度研修会などで取り上げ、職員同士の気づき・振り返り・改善を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に基づいたケアにより虐待はあり得ないが虐待防止に努めるよう不定期に朝のミーティング時施設マニュアルの読み合わせをしています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修会への参加を行っています ご利用者様の成年後見人との密な連絡、報告、相談を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時やサービス開始時また制度改定時には、十分な説明を行い納得が得られるよう努めています。いつでもご相談くださるようご家族、ご利用者様に伝えています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やご家族参加のお花見会、忘年会を開催しご意見が聞けるよう心掛けています。「ご意見箱を」設置し誰でも意見や要望を表せるようにしております	運営推進委員に家族代表を加えたり、年2回の家族会での話し合いなどで意見の聴取に努めているが、あまり出されない。毎週来所する家族がある一方、年間殆んど来ない方もあり様々である。職員の名前を覚えてほしいとの声を受け、胸元に名札の着用を図った。	家族との関係性は、利用者本人の心情理解が進み、それを家族と共有していくなかで深まっていく側面もあるかもしれない。家族と利用者双方の思いをくみ取りながら、徐々に協働関係を培ってほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一度(または不定期にも)施設長より職員一人一人の面接を行うことやリーダー会議(1月に1回開催)の際、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させています	法人で独自に作成した「自己チェック評価表」を用い個人面談を行う他に、施設長が全職員と話し合い悩みを聞いたり助言したりしている。また研修希望に応じ、勤務シフト調整や研修費用負担を法人として図っている。	新人職員が経験年数2～3年の先輩とペアを組み協力し合うエルダー制や、若手職員が中心となる大弁論大会など、職員同士が意見交流できる機会として非常に有意義なものを感じる。今後も一人ひとりの思いの理解とみんなが望むイメージの共有を通じて、利用者や地域と向き合う心を育ててほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は入社時、一律ではありませんが、経歴、勤務状況、資格取得により賃金を引き上げています、各自の能力に合わせた研修時の受講費用、旅費等補助しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた外部研修会への参加、事例を基にした施設内研修にてスキルアップできるよう研修会参加の機会を設けています また働きながら介護職員初任者研修を受講でき(受講費事業所負担)日々のケアにつながるようすすめています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会からの勉強会や交換研修にて交流し、情報交換とサービスの質の向上に努めております。また、他グループホームからの施設研修の受け入れをし、相互の理念やケア方針を共有しながらより良いケアにつながるよう取り組んでいます		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前(面談や利用申し込み時)より安心してご利用いただけるよう、ご本人様の声やお話に耳を傾け、不安なことや要望を聞いております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時、契約前の面談やアセスメント時なるべく多くのこととお話いただき情報を得るため時間をかけ、これからのケアにつながるよう心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を多機能に対応していきたいと考えています(疾病ごとの栄養管理、通院介助や買い物代行、福祉用具購入など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般にわたる家事を一緒に行えるよう声掛けと雰囲気づくりにつとめています。ご利用者様との信頼関係を築けるよう挨拶、言葉がけ等に注意をし些細なことでも意見を聞き自分の身に置き換えた対応をしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との電話での通話の自由、ご家族様への(ご利用者様からの)お手紙を送られたりご利用者様の作成した干羽鶴を送られたりする時のお手伝いをしています。また不穏時状況をお伝えし、ご家族様のお声や面会により家族とのつながりがあるという安心した生活を送ってもらえるよう協力いただいています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お一人お一人の生活歴に合わせた支援を心がけています。お参りしていた神社や働いていた場所へのお出かけ、面会は自由となっております。訪ねてきやすい雰囲気づくりに心がけています	通い慣れた神社に行き、風景に親しんだり季節行事に参加している。恒例となった「初日の出拝み」には全員が参加し、神社参りも行っている。家族が利用者の知人を連れて来所し、居室で歓談している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者様の人となりの理解を深め、軽作業やレクリエーションでお互いの距離を縮められるよう働きかけています。職員が会話の橋渡しをしたりご利用者様同士が良い関係でいられるように努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了となられたご利用者様のご家族様が来所されたり、ご自宅へ訪問させていただきお話を傾聴しています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の様子観察し希望や意向の把握に努めています。心身ともに無理の無いように対応しています	理念の「心の通い合うケア」を心掛け、利用者日々の言動から「思いや意向」の把握に努めている。利用者の行う掃除などのさりげない活動に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え良好な関係作りに配慮し、何でも言える雰囲気大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の談話やご家族様からのお話から情報収集し、その方を深く知るよう心掛けています、また過去のサービス計画書等に目を通し経過を把握するようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にご利用者様に關心をもち様子観察しその場面にあった声掛けをしています、ご本人様の意思を確認し無理のないよう意思決定の出来る場面を作っています。また日々のケアの中でケース記録等を使用し、共通認識で一人お一人の出来ることを把握しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成するうえで現在の心身の状況や変化をとらえ、現状に即した介護計画書を作成しています	管理者・リーダー・看護師が検討したものをケアプランの原案とし、そこに職員の意見を反映して作成している。日常場面で職員が気づいたこともアセスメントに反映し、ライスカレーの盛り付け方など細かな観点でも利用者に向合うよう対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共通のケアをするために気づきや変化を常に記録し、ケース記録、申し送りノート等で情報を共有しミーティングで事例検討し、実践につなげています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や買い物代行をご利用者様、ご家族様の体調や都合に合わせて柔軟に対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの理美容院への通いや、かかりつけ医への通院介助、なじみの店での買い物介助等自宅で暮らしていた時と変わらない気持ちで暮らしていられるよう働きかけています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康状態や心身の状態を記録しかかりつけ医や初めて診察を受ける医師や看護師に情報を提供し適切な医療が受けられるように努めています	半数が家族同行でのかかりつけ医受診で、ホームでの様子を書面で伝えているほか、必要時には管理者も受診に同行している。経験豊かな看護師が毎日(半日)勤務し、健康面チェックに万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の日々の状態を看護師と共有し適切な医療や看護が受けられるようご家族様やかかりつけ医に報告しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、認知症のため訴えが届きにくくその方の具合が悪い時のサインや不安の緩和方法をご家族様や医療機関にも伝え、病院でも安心して過ごされるよう情報交換に努めています。入院中のカンファレンスに出席し退院時の施設での安心した生活つなげるよう配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	終末期を迎えるご利用者様のご家族と何度も話し合いを重ね事業所で出来ることを十分に説明したうえでケアを考え方針を共有しています	看取り可能としてはいないが、協力病院の医師との連携や常時医療処置が必要ではないなど、条件的に可能であれば看取り支援も対応したいと考えている。これまでも亡くなる直前まで支援したケースはある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えてマニュアルを活用し、迅速な対応が出来る様にしています。AEDを使用した心肺蘇生の伝達研修会や疾患についての勉強会を行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、消防署員の指導の下避難場所や道具の使い方を身につけています。民生委員や地区会長・近隣のご家族様が訓練に参加して頂いています災害時必要な物品の検討し用意しています(発電機、ストーブ、乾電池等)福祉第二避難所に指定されています	消防署員立ち合いと施設単独の訓練を年4回実施し万全を期している。署員から「火災時は風向きを考慮し避難経路や場所を変えること」の助言を得た。3.11時には10日間被災者を受け入れ、今は地域の福祉避難所に指定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念に基づいた感謝と尊敬の心で声掛けや支援をしています、職員が入室する際は許可を得て入室し、入浴や排せつ介助では1対1で羞恥心やプライバシーに配慮しながら支援しています	理念の「感謝と尊敬の心」及び「自分の身に置き換え、して欲しくないことは絶対にしない」に徹している。その人の身になって気遣う具体的観点として「さりげなさ」を重視しており、自己評価等でも振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションや些細な行動からその方が望んでいることがくみ取れるよう気づきと声掛けを大切にしています希望通りとなるように会話を多くもっています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、水分補給、トイレ、入浴時は声掛けさせて頂いていますが、就寝や、日中の散歩はその方に合わせています。職員側の決まりがほとんどない為都合を優先することは(危険行為以外)ほとんどありません		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時静養の声掛けをしています。髭剃りの介助(剃り残し等)衣類の交換のお手伝いをしています。外出時の衣類選びもご本人様と相談しながらその人らしい服装で出かけられるよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な地元の食材を調理する前に食材に見て触れていただいたり、また庭の野菜を下ごしらえして下さっています。食器の片づけを手伝って下さる方やおしぼりの準備をして下さる方、職員とご利用者様が調理場に立ち一緒に作業し、食事は同じものをいただきます	野菜や魚などの旬の新鮮な地元の食材にこだわりカロリーにも配慮しており、日々の食事状況も丁寧に記録・検討されている。以前は準備・調理・片付けなど利用者も一緒に行っていたが、今は部分的活動である。栄養と調理を吟味した食事により糖尿病が改善された方がいるほか、健康面の向上により退所した方もいる。	経営者が地域の食育活動の講師であることを背景として食事に関する配慮はきめ細やかであり、それが利用者の健康面や生活面の向上にまで至っているのは素晴らしい。地域とのつながりも多彩なため、今後近隣や子どもたちなど分け隔てなく食を通じたわかちあいを広げていくことも可能と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼力、嚥下、体調や病状に合わせた味付けや食事形態で提供していますが、盛り付けに差が出ないように工夫しています。水分制限のある方は除き、水分補給が十分なされるよう職員が摂取量を共有し把握しています 夜間もボトルに水を入れ枕元に置いておられいつでも摂取できるようにされています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは風邪やその他の疾患の予防に効果があるため、口腔衛生の必要性をお伝えし口腔ケアしています。介助が必要な方はお手伝いしています。嚥下体操を行い唾液の促進をうながしています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンを記録・検討し、排泄の自立にむけた支援を行っています	全員がトイレで排泄しており、排泄パターンを把握して声がけや見守り、一部介助を行っている。夜間も全員トイレでの排泄で、薬剤によりフラフラする方や頻回な方もあるためセンサーも活用しながら夜勤者2名で見守り・介助対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や消化の良い食事提供、朝起きての水分補給、運動等で個々の合わせた取り組みをしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、一番風呂が好きな方や早い時間に入られない方等個々に合わせたお誘いをしています、また季節の菖蒲湯やゆず湯、大晦日には新しい年をすっきり・さっぱりと迎えてもらえるように支援しています	週3回の入浴を基本とし職員が声がけや介助をし入浴中はゆったりと話が弾む。入浴剤を使っており、季節に応じ菖蒲湯や柚湯を楽しんでいる。皮膚疾患のある方は毎日清拭を行い清潔に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ交換や布団干し等で清潔な気持ちの良い環境で休まれるよう支援しています。眠られない方にはお一人お一人の状況に応じた支援をしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様個々の薬のケースにお薬情報を貼り常に確認をしています。また体調の変化を看護師と相談の上主治医に報告し薬の管理を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業を行っていただいています。自発的に作業を行ってくださりそれが役割となっております。天候の良い日の散歩や草取り等、外での活動を通して気分転換も図るようになっています		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や季節のドライブ(初日の出、お花見、紅葉等)に出かけています 選挙の投票への付添もしています。帰宅したい時はご家族と相談しその時の状況に応じて支援しています	日常的に施設周辺を散歩し、隣にある中学校生徒と声を交わし楽しんでいる。馴染みや希望の場所へのドライブをし、又季節に合わせて花見や紅葉狩りに出かけている。忘年会やお花見会などではホテル会場を借り、食材や調理道具を持参して個々にあった食事を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いつでも買い物ができるように、お金が使えるようお小遣いをお預かりしています。またそのことをご本人へも伝えていきます。付き添い一緒に買い物をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話の使用をさせていただいています。ご家族様への贈り物やお手紙を送る際もお手伝いしております(お孫さんへのクリスマスカードや娘さんへの千羽鶴プレゼント、お写真もお送りしています)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りやご利用者様が作った作品を展示しています 毎日の清掃に気を配り清潔の保持に努めています。また毎日温度、湿度を計測し加湿器空気清浄器を使用し快適に過ごされるよう努めています	高齢者が快適に生活できる様、理事長自ら設計を行い移動面・心理面に配慮した建物である。自然光を取り入れたやさしい明るさの空間で、温度・湿度のコントロール、空気清浄がなされている。清掃がきちんとなされ清潔感に溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別のお部屋で一人になりリラックスされたり、気の合うお仲間が訪ねてこられお部屋でお話されることもあります お一人お一人が好きなお場所でくつろげるよう配慮しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご利用者様の馴染みのものをお持ちいただいたり、ご自分の作品を飾っていただいたりしていますまたご家族様と相談の上ベッドから布団に替えたりしています	居室にはベッドがあるが利用者・家族の希望で布団に変えた方がいる。使い慣れた小物や置物、人形が置かれ、家族の写真や手作り作品が飾られ、安心して寛げる空間である。清掃が徹底され快適な空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間では手すりがあるため安全な歩行ができる環境となっていますが、ご利用者様の身体の状況で付添や見守りが必要な方もおられます。トイレと洗面所は車いす対応となっており、自立的な可動を可能としています。施設内事務室の壁のくりぬき等でオープンな空間での見守り援助をしています		